

「となりびととなるために」

主イエスは「あなたのとなりびとを愛しなさい」と教えられました。愛するとは「大切にする」とケセン語訳聖書で訳されております。東北教区宣教協議会より「2025 耳を傾けよう」キャンペーンが提案されました。各教会、幼稚園、こども園、各部門において、すべての活動の原点に、あらためて「耳を傾ける」ことを意識し、丁寧に取り組んでいただければという願いが込められています。

先日、ある信徒の方と話していた時に今大切なことは「会話力」ではなく「対話力」ですよねという事を教えて頂きました。人とのコミュニケーションをとるためには話の引き出しを豊富に持つ会話力も必要ですが、相手の心を察し、思いを尊重しつつ、たとえ自分と意見が違っても向き合いながらお互いに話合っていくことだと私は理解しました。

もう一つの体験を紹介します。3月12日に岩手県教誨師研修会が盛岡少年刑務所で行われました。教誨師会は、仏教、天理教、神道、キリスト教の宗教者によって構成されています。普段はそれぞれが担当の日に刑務所に出向いてそれぞれの宗派の教誨を行うため、お仲間の教誨師の皆さんとお話しをする機会はほとんどありません。

ですからこの度の研修会は貴重な時が与えられました。研修会の後に、場所を移動して懇親会を行いました。場所は、天理教岩手教務支庁だったのですが、私の長女が通学していた下ノ橋中学校(盛岡)のすぐ近くでした。教務支庁とは聖公会でい

えば東北教区事務所と教区会館の機能を併せ持ったような場所です。私は初めて訪問させて頂きました。

懇親会の場で伺ったことなのですが、この度の大船渡山林火災でも天理教はボランティア活動ネットワークが日頃から整えられていて真っ先に大船渡に人を派遣したそうです。聖公会の枠だけでの支援活動ではなく、天理教や他の宗派の皆さんと動きに連携させて頂くことも今後出来るのかなと思いました。振り返れば、東日本大震災発生時も宗派を超えて手を取り合い活動しました。

かつてローマ教皇ヨハネ・パウロ 2 世は「教会間一致運動は第 1 義的でなければならぬ」との言葉を残されました。

時間の空いている時に第 2 義的に行うことではなく、何よりも優先して取り組むことが教会間一致運動であります。それは、本来はキリストの教会は一つであるべきだからです。また、「諸宗教間対話」も大切にされています。宗派を超えて対話をし、お互いを理解しあい、尊重し、平和のために手を取り合っていく活動です。対話力を養うために、そしてとなりびととなるために日頃からそのような機会を大切にしていきたいと思います。

(司祭 越山哲也)